

アレセア湘南高等学校 年間指導計画

科目名	社会問題探究		学年・クラス	高2 探求コース 選択
単位数	2単位	使用教材	ソーシャルチェンジ	

1 授業の進め方

グループ探究を進めていく過程で、コミュニケーション、ディスカッション、ファシリテート、ロジカルシンキング、ブレインストーミング、プレゼンテーションなどのスキルを身につけ、それらを基盤として、自ら課題を発見し、ソーシャルイノベーションをもたらす人材育成の基礎を育む。

2 授業計画

	学習内容
1 学期	グループ探究に必要なコミュニケーション、ディスカッション、ファシリテート、ロジカルシンキング、ブレインストーミング、プレゼンテーションなどのスキルを磨いていく。
2 学期	世の中にある社会課題を分析し、1 学期に磨いていったスキルを活用し、社会課題を解決するための案を企画する。
3 学期	社会課題を解決するためのソーシャルビジネスの基礎を磨き、生成AIを活用し、企画案を考える。

3 授業の狙い

現在の学校教育では、「問いは教師が設定する」「正解は決まっている」「評価は点数や順位で行われる」という構造が主流である。

その結果、生徒は、「自分で問いを立てる経験が乏しい」「正解がないと考えられない」「指示がないと動けない」という状態に陥りやすい。

一方、社会では、「問いは与えられない」「判断の責任は自分が負う」「正解は存在しない」という構造である。

そして現在、教育を支えてきた社会の前提条件そのものが大きく変化している。「情報化と生成AIの急速な発展」「人口減少・少子高齢化」「グローバル化による価値観の多様化」「環境問題という不可逆的課題」これらに共通するのは、「正解があらかじめ用意された世界ではなくなった」という点である。にもかかわらず、学校教育の多くは依然として「正解を覚える」「評価基準に合わせて最適化する」という義務教育型の学びを高校段階まで延長している。

本来の学びとは、「知的好奇心」を刺激され、各々が知りたいと思う領域を納得いくところまで情報収集し、実行に移すことなどではないかと考え、高校2年生のグループ探究活動を進めていく。探究のプロセスは、「問いの生成」「仮説検証」「情報収集」「他者との対話」「振り返り」「修正」であり、このプロセスは、社会における意思決定そのものである。

探究とは、社会に出てから突然求められる判断を、学校という安全な環境で繰り返し経験する学びである。